
平成23年 第2回定例会

一般質問 田村英樹議員

平成23年 6月10日

▶質問

公明党の田村英樹でございます。このたびの大田区議会議員選挙にて、多くの区民の皆様を支えられ、このように区議会議員として仕事をさせていただくことになりました。どこまでも区民の目線に立ち、大田区の発展のために懸命に働いてまいり所存でございますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

震災発生から約3か月がたちました。震災当日、この大田区内での被災状況は様々な方からお聞きいたしましたし、先の第1回臨時会においても様々な事例を通して、多くの議員から安心・安全のまちづくりを主眼に置いた質問、要望が行われました。今回明らかになった大都市が持つ弱点の改善を、大田区におきましても迅速に、かつ万全に対処していかれることを切にお願い申し上げます。

あの3月11日、私は東六郷児童館敷設の公園にて、近隣にお住まいの子ども連れのお母様数名と懇談をしておりましたが、地震発生後だんだん大きくなる揺れの中、みんなで公園の中央に集まりしゃがみ込みました。周囲の電柱や建物が大きく震え、大きな音を立てて電線が弾み、地中に埋設の防火水槽の水が波打つ振動を感じながら、かつて経験したことのない恐怖の中で揺れがおさまるのを待っておりました。大人でさえこのような状況でありましたから、同じ体験をした子どもたちが感じた恐怖ははかり知れないものだったと思います。不安に耐えながら、揺れがおさまるのをじっと待っている子どもたちの目を見たとき、私は大人の責任として、

未来の宝である子どもたちのために、しっかりと安全な環境をつくっていかねばならないと強く感じました。

一言で安全な環境といっても、物質的な環境整備のほかに教育環境の整備や家庭支援など、多岐にわたる改革が必要不可欠であると思います。この子どもの成長を取り巻く環境の整備は、大田区が平成21年3月に策定したおおた未来プラン10年にも目標施策として掲げられております。施策の中で課題として、子どもたちが放課後も安全に過ごせるよう、児童館・公園など安全な居場所づくりを進める必要がある。青少年を取り巻く環境の変化を家庭や地域社会が理解し見守りながら、成長の手助けをしていくことが課題となっていると定義しており、大田区はこの施策の方向性と主な事業展開として放課後の安全な居場所づくりを掲げ、学童保育やフレンドリーおおた事業の充実を推進していくと目標設定しております。

私は今回、大田区が取り組む学童保育の展望について質問させていただきます。

今春3月、地域のお母様から一つのご意見をちょうだいいたしました。その方のお宅は東六郷二丁目にあり、区立東六郷小学校の近隣でございます。こちらの家庭は、両親が共働きのため、子どもが1年生のときから学童の利用を希望しておりましたが、空き教室の問題から同学校内には学童はなく、最寄りの東六郷児童館での学童を利用しておりました。ところが、このお宅と学校などの位置関係を確認してみると、小学校、自宅、児童館となっており、児童は学校の授業終了後、ランドセルや荷物を持ったまま自宅付近を通過して児童館へ向かいます。この距離は、大人の足でゆっくり歩いて15分から20分、子どもの足ですと25分程度かかると思われます。通常時や夏休みなどの学校休業日も含め、最終的にこの児童は、1年生から3年生の3年間にわたり遠方にある児童館での学童保育を利用いたしました。小学校から児童館までの移動で使用する道路を見てみると、自動車や自転車の往来が多いわりにガードレールが設置されている箇所が少なく、例えば雨降りで傘を差し

での移動は少なからず危険が伴ってくると言わざるを得ません。こうした状況、現状を見るだけでも、空間や人材の問題はあるにせよ、このケースの場合は校舎内での学童保育の充実が重要な課題になってくるのではないかと感じました。

大田区における平成23年度の学童保育利用状況を確認しましたところ、最大受け入れ人数4255名に対し、利用者数は3815名となっており、このうち東六郷小学校の児童のうち、区営の児童館で学童保育を利用している人数は、東六郷児童館で59名中13名、萩中児童館で65名中39名とお聞きしております。昨今の経済状況から、夫婦共働き世帯が非常に多くなっている中で、よく言われている保育園の絶対数が少ないという問題の延長として、小学校舎内での保育も含めて学童保育の拡充を早急に取り組んでいくべきではないかと考えますが、大田区としての見解をお聞かせください。

あわせて、受け入れ年次を6年生まで拡充してほしいとのご意見もありました。こちらは児童福祉法に定められているおおむね10歳未満という対象の改正が前提ではありますが、大田区としての見解はいかがでしょうか。

冒頭に申し上げました、大田区の宝である子どもたちを守る環境づくりは、私たち大人の大きな大きな責任であります。今後、教育環境、住環境の整備からも子どもたちが安全に暮らせる環境づくりを推進していきたいと考えます。

ここまで東六郷小学校をモデルとして質問を進めてまいりましたが、大田区全体の学童保育施設72か所に対して、小学校併設の学童保育施設の数13か所となっており、比率は全体の約18%となっております。現在、学童保育の主となる施設は児童館であり、区内48か所で全体の66.7%となっております。多くの子どもたちが学童保育として利用しているこういった施設について、それぞれの築年数や建物の状況から、近年、改築や大幅な改修工事を想定される建物は大田区内で何件程度見込まれていますでしょうか。

もし改修計画があるのであれば、ぜひとも老人いこいの家との共生をご検討いただけないかと考えます。大田区の運営する老人いこいの家は、その愛称をゆうゆうくらぶとして区内28か所で活用されております。そのうち、大森中児童館や中馬込児童館など7か所においては、ゆうゆうくらぶとの併設が実現しております。核家族化が進む現代、地域コミュニティの場において豊かな知恵を持つ高齢者と活力ある児童との交流によって、高齢者は生きる喜びを見出し、児童は豊かな心の土壌を築くことができると思います。これは決して大げさな見解ではないと思います。学童保育の拡充、またゆうゆうくらぶとの併設について、費用面、人材面、運営面で様々な問題点があるかと思いますが、ぜひおおた未来プラン10年の一つの展望として、大田区の未来を築くため積極的に取り組んでいただきたいことを要望し、公明党田村英樹の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

<回答>

▶筒井 こども家庭部長

田村議員の学童保育の拡充についてのご質問に順次お答えいたします。

まず、小学校舎の保育も含めまして、学童保育の拡充を早急に取り組むべきではないかとお尋ねでございますが、学童保育の拡充につきましては、おおた未来プランに基づき取り組んでおりまして、昨年度は小学校の敷地内にありました旧幼稚園舎を活用したおおたっ子ひろばを6施設開設して、全体で110名の受け入れ数を増やしてございます。議員ご指摘のとおり、区といたしましても小学校内の学童保育施設は児童の安全を確保する上で望ましいと考えており、おおたっ子ひろばを含めまして、フレンドリーおおたや児童館の分室を小学校内に設置しているところでござい

ます。現在、小学校の教室は35人学級等によりまして余裕のない状況にはございますが、今後、地域における学童保育需要を把握するとともに、適切な対応を行ってまいりたいと考えてございます。

次に、学童保育の受け入れ年次を6年生まで拡充することに対する区の見解についてのお尋ねでございます。議員のご質問にございますように、児童福祉法では、放課後児童健全育成事業はおおむね10歳未満の児童とございますので、区といたしましても小学校3年生までの児童を学童保育の対象としてございます。ただ、これに関しまして、保護者の方々に様々なニーズがあることは承知しているところでございます。現在、区の学童保育施設の多くは児童館を中心に実施しておりまして、現行の小学校3年生までの学童利用に際しましても、施設の規模によりましては受け入れ数に余裕がなく、やむなくご利用をお待ちいただいているような状況もございます。このような状況にありましては、小学校4年生からは児童館を一般でご利用していただくことにより、放課後の児童の居場所として活用していただきたいと考えてございます。

次に、学童保育施設で近年、改築や大幅な改修工事を想定されている建物は何件程度見込まれているのかのお尋ねでございます。平成21年3月に策定いたしました大田区公共施設整備計画では、昭和56年以前の建築物の耐用年数は原則として60年としておりますが、築45年を経過した段階で解体か改築、または改修の判断をすることとなっております。現在、区有建物の児童館、こどもの家につきましては全部で51施設でございます。建築年代別で言いますと、昭和40年代が17施設、昭和50年代が19施設ございまして、半数以上が他の施設との併設施設となっております。今年度の学童保育施設の改築や大幅な改修工事につきましては、先の臨時会におきまして補正予算でご審議いただきました古川こどもの家の改築工事をはじめ、大森、中馬込、新井宿児童館の耐震補強工事を予定してございます。

最後に、今後の児童館改修計画に際して、老人いこいの家との共生を検討いただきたいとお尋ねでございます。現在、老人いこいの家と児童館のかかわりにつきましては、地域世代間交流活動の一環として、いこいの家の利用者の方々と折り紙、将棋などをともに行うことで、小中学生の児童館利用者との交流を行っているところでございます。なお、現在老人いこいの家の改築の予定はないということでございます。

私からの答弁は以上でございます。